

Editor's Choice

今月の編集部オススメのソフト&ハード

今月のおすすめは、「x2」テクノロジーで56Kbpsでの通信が可能なモデム「SP560V-P」、複数のパソコンからインターネットに接続できるIPマスカレード機能を搭載したルーター「RT102i」、低価格で、INSテレホーダイにも対応できるタイマー機能搭載の「NetVehicle-I」、簡単に立ち上げられるWebサーバー「Twister INTRANET SERVER」、あらゆるジャンルのホームページ用素材を収録した「WEB TOOL」、片手で操作できる軽量小型デジタルカメラ「Picona」だ。

今月のラインナップ

ISDNに迫る速度「x2」テクノロジーの56Kモデム

SP560V-P

[開発元] USロボティクス株式会社



IPマスカレード機能を搭載したスモールオフィス向けルーター

RT102i

[開発元] ヤマハ株式会社



MPにも対応した低価格なパーソナルルーター

NetVehicle-I

[開発元] 富士通株式会社



簡単に立ち上げられるイントラネットサーバー

Twister INTRANET SERVER

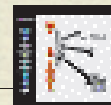
[開発元] Compact Devices



あらゆるジャンルの素材を網羅したホームページ作成用素材集

WEB TOOL

[開発元] 株式会社エイジア



片手で操作できる小型軽量デジタルカメラ

Picona

[開発元] 日本電気株式会社(NEC)



付録のCD-ROMに収録

このコーナーの見方



市販のハードウェア製品



市販のソフトウェア製品



シェアウェアのソフトウェア



フリーウェアのソフトウェア



ウィンドウズ95用



ウィンドウズ3.1用



ウィンドウズNT用



OS/2用



マッキントッシュ用



UNIX用



動作環境



発売元



電話番号



価格



関連情報



バージョン



作者/開発元



入手先



付属品



ファイルサイズ/最速転送時間

[注]「最速転送時間」とは、28800bpsのモデムを使って圧縮なしでファイルを転送した際の、理論上で最速の転送時間を意味します。ダウンロードするときの目安としてください。ファイルサイズ(バイト)×10÷28800で計算しています。端数は切り上げています。



ISDNに迫る速度「x2」テクノロジーの56Kモデム

エスピー560パイパー

SP560V-P

ここがスゴイ!

- ① アナログ回線でISDN-64Kに迫るスピード
- ② 実売2万円強でコストパフォーマンスが抜群

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]



オープンプライス
(秋葉原ツクモインターネッ
ト館で22,800円)



USロボティクス株式会社



ついにU.S. Roboticsから「x2」テクノロジーによる56KモデムSP560V-Pが発売された。これまで、アナログ公衆回線での限界は33.6Kbpsと言われてきたが、その値を超えてISDNの64Kbpsに迫るスペックだ。ロックウェルが提唱する「K56flex」方式のモデムに真っ向から挑む格好になるだけに、大いに注目されるモデムだ。

▶ 「x2」テクノロジーとは?

「x2」テクノロジーは従来のモデムで前提としていた回線の両端がアナログ接続であるという点をくつがえしたことで、56Kbpsという速度を実現している。従来の33.6Kbpsのモデムと異なり、アクセスポイント側のモデムにはISDNで接続される特殊なモデムが使われ、データ転送にともなうノイズを減らすことが可能となった。この効果は下り方向、つまりアクセスポイントから端末へのデータの流れだけに有効になるため、下り方向だけが56Kbpsとなり、上り方向は33.6Kbpsとなる。実際の使用状態ではデータの流れはほとんどが下り方向なので、非対称性は気にならないはずだ。

▶ サポートを表明するプロバイダーは4社

製品発売日の時点で「x2」のサポートを表明しているプロバイダーは、アスキー・インターネット接続サービス(AIX)、Business Network Telecom、Global Online、東京インターネットの4社と少ない。プロバイダー向けのネットワーク機器でシェアの高いアセンド社、シスコ社などがロックウェルの「K56flex」テクノロジーの採用を決めているため、2社のルーターを導入しているプロバイダーが「x2」のために機材を入れ替えるとは考えにくい。ただ、56Kモデムの正式な規格が決まっていない現段階では、互換性のない12つの規格が併存するため、各プロバイダーがどう判断するか興味深い。

試用レポート

▶ 56Kモデムなのに52000bpsまで?

アスキー・インターネット接続サービス(AIX)の56Kの回線を利用して接続テストを行った。試してみたところ、接続できる速度の上限は52,000bpsまでだった。今回は、回線品質が高いISDNのアナログポートと、アナ

ログ公衆回線

で10回ずつの接続テストをしたが、ISDNのアナログポートでは10回すべて52,000bpsで接続し、アナログ公衆回線では10回中2回が50,666bps、残りが52,000bpsという結果となった。U.S. ロボティクス

社によると、52,000bpsが事実上の上限なのは、国内のモデムの送出レベル(信号の大きさ)が低めに決められていることが原因で、規制緩和でモデムの送出レベルが高くなれば、間違いなく56,000bpsの性能が出せるということだ。送出レベルの規制緩和に関しては、郵政省が4月24日に出した諮問で、電気通信技術審議会に「アナログ電話端末設備委員会」の設置を決め、議題として扱うことになっている。ただ、答申が出るのが早くても9月ということなので、実施されるとしても来年の4月頃。モデムの進歩にはとても追いつかない模様だ。

ISDNにTAをつなぎ、アナログポート経由でアスキー・インターネット接続サービスに52,000bpsで接続してみた。アスキー社のホームページから「インターネットニンジャ」というソフトウェア(1.79Mバイト)を転送してみたところ、6分9秒で転送が終わった。転送速度は毎秒5.1Kバイトである。同じ条件で今度は他社製のモデムを使って同じソフトウェアを転送してみたところ、11分35秒かかった。転送速度は、2.7Kバイトだ。2倍に少し満たないという数値になった。

▶ ISDNとも比較しつつ賢い選択を

確かにISDNよりもやや性能は劣るが、現在のモデムの中ではもっとも高速で、しかも手頃な値段で入手できるメリットは大きい。56Kに対応していないプロバイダーやパソコン通信ネットともいくつか接続してみたが特に問題はなく、新しいモデムにありがちな相互接続性の悪さはないようだ。価格も33.6Kモデムよりも少し割高な程度なので、加入しているプロバイダーが「x2」をサポートするようなら、選択肢として検討してみてもいいかだろう。(梅垣まさひろ)



① 側面のボリュームコントロールはボタン式。



② 左からRS232Cポート、スピーカー出力端子(ミニジャック)、ライン端子、電話端子、ACアダプター。



③ 画面のCD-ROMのマニュアルは綺麗でまとめたが、添付のインストールガイド冊子の出来は目にある悪さ。何とかしてほしい。

SP560V-P



USロボティクス社



オープンプライス
(参考流通価格22,800円)



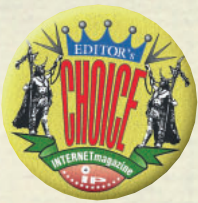
03-5402-6211



モジュラーケーブル、RS232Cケーブル、ACアダプター



<http://www.usrobotics.co.jp/>



158,000円



ヤマハ株式会社



IPマスカレード機能を搭載したスモールオフィス向けルーター

アールティー102アイ

RT102i

ここがスゴイ!

- ① 複数のパソコンも端末型ダイヤルアップ接続でインターネットへ
- ② プロバイダー推奨機種になっていることが多いので安心

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]



① 筐体上部のミゾで3台まで積み重ねられる。

ダイヤルアップルーターをスモールオフィス向けに普及させる一翼を担ったヤマハのRTシリーズの低価格モデルが、さらにコンパクトになって登場した。パーソナルなダイヤルアップルーターには不安を感じる人向けのコンパクト機に仕上がっている。もちろん専用線やOCNにも使える。

ラインで設定しなければならないが、クイックスタートガイドを参考に比較的楽に設定できる。設定内容はフラッシュROMに保存され、電源が落ちてでも消えることがない。また、TFTPでLAN上のサーバーからのダウンロードも可能だ。設定できる機能はパーソナルユース製品とは一線を画し、詳細な情報まで指定できる。IPはもちろん、IPXのルーティング、その他プロトコルのブリッジ、「IPアドレス」「プロトコル種別」「TCP・UDPのポート」「パケット送信・受信」「SAP・SPX」のパケットタイプでのルーティングフィルタリングや、MACアドレスとバイト列でのブリッジフィルタリングが可能だ。各種タイマーで自動接続・切断も細かく行える。RADIUS認証方式にも対応し、DHCPリレーエージェントで接続先のDHCPサーバーを利用できる機能、ローカルのプライベートアドレスとグローバルなアドレスを対応づけるNAT機能や、1つのグローバルなアドレスを複数のプライベートアドレスに割り当てるIPマスカレード機能が備わっている。これを使えば端末型ダイヤルアップ接続で複数のマシンから同時にアクセスできる。もちろんMPもサポートしている。

▶ モデムサイズの積み重ね可能な筐体

まず驚くのはコンパクトなサイズで、164×120×30.4 (mm)のポディーはモデムと変わらない大きさである。底部に4つの足が、上部の同じ位置にも凹みが作られており、3段までなら積み重ねて設置できるようになっている。積み重ねで問題となるのが発熱であるが、本体に電源回路を持たないことで発熱を抑えている。また、通常の利用では電源を切断する必要がないためか、電源スイッチはない。

▶ DSUは必要

DSUを必要とし、構内配線側のモジュラージャックにRJ-45モジュラーケーブルを使って設置する。終端抵抗を内蔵するので、スイッチを切り替えればNTTのDSUのモジュラージャックに直接接続することもできる。LAN側はパソコンかHUBの10Base-Tポートへつなぐが、ストレートケーブルでつないだあと、パソコンなら「REVERSE」、ハブにつなぐなら「NORMAL」にストレート・クロス配線切り替えスイッチを合わせる。

▶ 設定はコマンドラインから

問題は初期設定の方法だが、最初はシリアルポートにパソコンをつなぐのが妥当な手段となる。コマンド

試用レポート

▶ 複数のパソコンで快適インターネットアクセス

設定までが面倒であるものの、接続と切断は自動で行えるため快適だ。端末型ダイヤルアップの接続でLANにつないだ複数のマシンから同時にインターネットにアクセスできるIPマスカレード機能は有効に機能し、ハブを使ったLANに接続してRealPlayerを1台のパソコンで動作させながら、別のパソコンでWWWブラウジングさせてもどちらもストレスなく動いた。また、DHCPサーバーの機能は予定されているが、現在はまだないのでIPアドレスは個別にマニュアル設定した。Bチャンネル1本でも、各々のパソコンが28.8Kbpsモデムでつないでいるときよりも速く思える。128Kbpsなら、5~6台でWWWブラウジングしてもイラつかないだろう。家庭用としては安易に導入に踏み切れない価格かもしれないが、小規模オフィスやインターネットカフェ向けの機器としては最適だろう。

(菊地宏明)



② 左からACアダプター、シリアルポート(9ピン)、10Base-Tポート、10Base-T極性反転スイッチ、ISDNポート、構内配線用の終端抵抗ON・OFFスイッチとGND端子。

RT102i



ヤマハ株式会社



158,000円



0539-63-0082



ISDNケーブル、ACアダプター
<http://www.yamaha.co.jp/news/97011601.html>



MPにも対応した低価格なパーソナルルーター

ネットビークルワン

NetVehicle-I



59,600円



富士通株式会社

ここがスゴイ!

- ①簡易設定
- ②INSテレホーダイ、OCNエコノミー、専用線に対応

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]



LANをインターネットに接続させるダイヤルアップルーターは、高価でプロユースの製品ばかりだと思われていたが、その常識は打ち破られつつある。NetVehicle-Iは、パーソナルユースのISDN、OCNエコノミー、専用線対応のダイヤルアップルーターだ。

▶コンパクトなパーソナル機

210×180×30(mm)という大きさは、本誌の8割ほどの大きさしかなく、大きめのモデム程度だ。DSUは別途用意しなければならないが、ISDNポートに接続したモジュラーケーブルの片端は、DSUから延びる構内配線側のローゼットに接続する。NetVehicle-Iには、構内配線用の終端抵抗を内蔵してないので、ローゼットに終端抵抗が内蔵されていることが必要だ。

▶ものの5分で接続は完了

10Base-Tポートは、ケーブルでパソコンがハブの10Base-Tインターフェイスへつなく。このときのケーブルはストレート配線で構わない。通常ハブをつなぐ場合はクロス配線のケーブルが使われるが、背面にある「DTE/HUB」切り替えスイッチで、どちらでも対応できる。複数のパソコンを10Base-Tで接続しているならば、ハブの1ポートとNetVehicle-Iの10Base-Tポートをストレートケーブル(通常ハブ/パソコン間に使われる10Base-Tケーブル)でつないで、切り替えスイッチを「HUB」にする。パソコンが1台しかない場合は、パソコンの10Base-Tポートとストレートケーブルでつないで、切り替えスイッチを「DTE」にする。接続はこれだけで、要領が分かれば5分かからない。

試用レポート

▶INSテレホーダイにも対応したタイマー機能

設定はLAN上のパソコンのWWWブラウザから行う。初期設定により、簡易DHCPサーバー機能(クライアント16台まで)が有効で、NetVehicle-I自体がIPアドレスを持っているので、パソコンのTCP/IP設定でDHCPサーバーを利用するように設定を変更するとよ

①左からISDNポート、10Base-Tポート、接続機器がパソコン(DTE)かハブを選択するスイッチ、シリアルポート(9ピン)、電源スイッチ。



②本体から直接ACコードが伸び、邪魔になる電源アダプターはない。

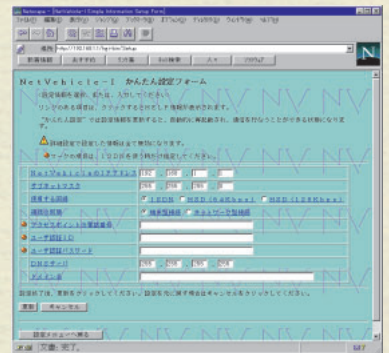


い。ウィンドウズ95やマッキントッシュのオープンランスポートでは、DHCPサーバーが使えるので、その設定さえ行えば、ほかの設定は必要ない。手で発信する場合は「回線手動接続フォーム」から登録した接続先を選んで「実行」ボタンを押すだけだ。接続先は3件まで登録できる。NetVehicleでは、ローカルのIPアドレス以外にアクセスしようとすると自動で接続を開始できる。接続中でも一定時間通信データがないと切断する無通信監視タイマー機能も備えるが、INSテレホーダイ時間帯などにはタイマー機能を停止できる。他のルーターには見られない面白い機能だ。もちろんMPもサポートしているので、128Kbpsの通信も行える。

▶簡単な設定でルーター入門機に最適

ルーターの専門知識がなくても、以上の設定だけで使えてしまうところがNetVehicle-Iの最大の特徴だ。シリアルポートの遅い機種では、イーサネット経由でアクセスすることでスループットが向上したように思えた。ローカルなIPアドレスとインターネット上のIPアドレスを対応づけるNAT機能を装備するものの、同時に1台のパソコンしかアクセスできないのが残念だが、6月末には複数台からのアクセスを可能にするマルチNATをサポートする計画がある。同時に、IPフィルタリングや可変長サブネットにも対応する予定だ。

(菊地宏明)



③WWWブラウザ上で設定できる。

NetVehicle-I



富士通株式会社



59,600円



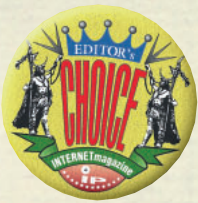
03-3216-9245



ISDNケーブル



<http://www.fujitsu.co.jp/hypertext/Products/telcom/NV/>



簡単に立ち上げられるイントラネットサーバー

ツイスター イントラネット サーバー

Twister INTRANET SERVER



198,000円



フェニックス販売株式会社

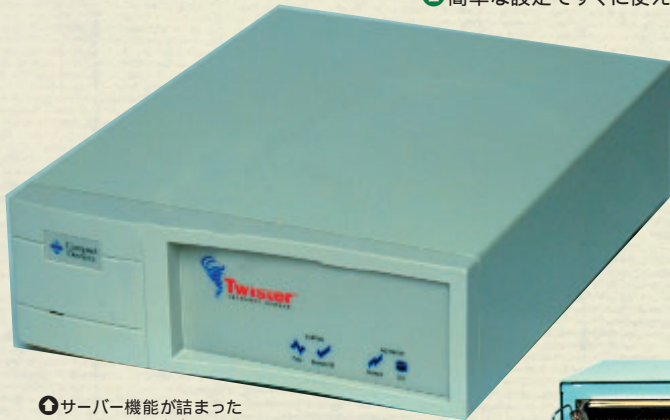


ここがスゴイ!

- ① 小さな箱のオールインワンWebサーバー
- ② 簡単な設定ですぐに使える

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]



①サーバー機能が詰まったコンパクトなボディ。

②左からSCSIポート(上) シリアルポート(9ピン) 10Base-Tポート、フラッシュRAM切り替えスイッチ、電源スイッチ。



ンの電源を全部落としてもTwisterの小さな箱だけを動かしてあげればWebサーバーが持てるわけだ。

▶ 拡張SCSIポートの使いこなしがカギ

拡張SCSIポートを使えば、外部にハードディスクやCD-ROMドライブ、ZIPドライブなどを増設することができる。Webページを外付けZIPドライブに収めておけば、ZIPディスクの交換だけでデータを更新することができる。また、CD-ROMドライブをつないで、WWWブラウザ経由で共有するという使い方もできるだろう。

試用レポート

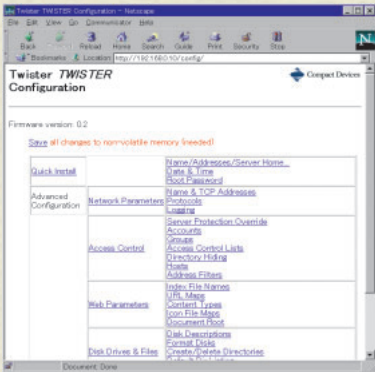
▶ 設定、管理はとてシンプル

TwisterにIPアドレスを設定するためのソフト「Instant IP」でウィンドウズマシンからIPアドレスを設定するだけで、Twisterは最低限のWebサーバーとしての機能を開始する。箱から出してものの15分。あとは、WWWブラウザを立ち上げてTwisterのURLを指定するだけ。残りの設定はすべてWWWブラウザ上でできる。必要なアカウント、ディレクトリーを作成すれば、あとはWebページのデータをTwisterの内蔵ハードディスクに転送するだけだ。複雑で厄介なWebサーバーの設定などほとんどない。データは、付属の「File Move Utility」を使うか、汎用のFTPソフトを使って転送する。

▶ 拡張性は乏しいが、手軽さは捨てがたい

WebページでCGIが使えないというのは寂しいが、部分的にはJavaスクリプトなどを使って機能不足は補えるわけだし、メインのWebサーバーが動いているのなら、サブ用あるいはバックアップ用としても悪くない。今後はCGIやデータベースとの連携機能を持った製品も検討しているようなので期待したい。ただ、パソコンをベースにしたWebサーバーが20万円ほどあればできてしまうことを考えると、もう少し価格が下がってこないコストメリットが出にくいのではないかな。たとえば、外付けSCSIポートをなくすなど、必要なコストダウンをはかった低価格なバリエーションが欲しいというのは、いささか欲張りだろうが。

(梅垣まさひろ)



①ブラウザで環境を設定するためのConfigurationメニュー。ほとんどのページが日本語化されている中で、このページが英語のままなのが残念。

Twister INTRANET SERVERは、買ってきてネットワークと接続し、電源を入れて30分ほどで使える手軽なWebサーバーだ。写真だけだとPC交換機サイズと勘違いしてしまうが、タワーケースの上にチョココンと載る58×180×210(mm)のコンパクトなカラダには、1Gバイトのハードディスクと10Base-T、Webサーバー機能がぎっしりと詰め込まれている。

▶ 部門サーバーや簡易インターネットサーバーに

Twisterが提供するサービスはシンプルなWeb機能だけだ。会社の中の部門サーバーや小規模な会社の社内情報サーバーとして使うのが一般的だろう。だが、サーバー機能を標準装備しているウィンドウズNTが導入されているオフィスでは、Twisterの活躍の場所は非常に限られる。また、CGIやデータベースとの連携などの拡張機能もない。では、Twisterはどのような用途に使えるだろうか。まず、何と言っても捨てがたいのが設定の簡便さだ。パソコンの簡単な操作と、ちょっとしたホームページ作成の経験があれば立ち上げられる簡単さだから、専門の技術者が確保できない部署や会社にはおすすめだ。また、パソコン1台をサーバーとして占有してしまうことがない。さらには、イントラネットではないが、OCNエコノミーや専用線でDNSをプロバイダー側に提供してもらった場合には、ルーターさえ用意すればWebサーバーを構築できるわけだ。これなら、ウィンドウズNTやUNIXなどのマシンが確保できない小さな会社やSOHOでも使いやすい。パソコ

Twister INTRANET SERVER



フェニックス販売株式会社



03-357-9980



198,000円



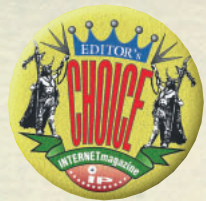
Compact Devices



電源ケーブル



http://www.fenix.co.jp/twister/home.html



あらゆるジャンルの素材を網羅したホームページ作成用素材集

ウェブ ツール

WEB TOOL

ここがスゴイ!

- ① JAVAやQTVR、MIDIなど、専門的な知識が必要な素材を収録
- ② HTMLのサンプルがそのまま流用できる

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]



5,000円



SAITO CORD CO.,LTD.



WEB TOOLは著作権フリーのホームページ作成用素材集である。ホームページのバックグラウンド画像、アイコン、飾り罫などの基本的素材はもちろん、JAVA、QTVR、ショックウェブ、MIDIなど、作成するためには専門的知識やソフトを必要とする素材が満載。この素材集ひとつで、視覚、聴覚に訴えるインタラクティブなホームページ作成が可能だ。

▶ ホームページに動画や音楽を使いたい

いろいろなホームページを眺めていて、自然と印象に残るページには要所で動画が使われていることが多い。ちょっとした絵でもそれが動き出せば、視覚的効果は抜群だ。WEB TOOLには70点のGIFアニメーション、10点のショックウェブが収録されている。GIFアニメーションには、可愛いアイコンや動く飾り罫など実用的な素材が豊富だ。一方ショックウェブは、自分で書いたテキストのメッセージを貼り付けることができる掲示板以外、あまり実用的なものはなかった。

また音楽データも豊富で、本格的なオリジナル作品からクラシックの名曲まで70曲のMIDIフォーマットのデータが収録されている。もちろん著作権フリーだ。さらに、MIDIフォーマットの曲と同内容ではあるが、WAVE、AIFF、AUの各フォーマットでそれぞれ50曲のデータが収録されている。

▶ QTVR Panorama を20点収録

ホームページ上で画面をドラッグすると、360度のPanorama画面が楽しめるQTVR(Quick Time Virtual Reality) Panoramaの画像が、20点収録されている。内容としては、回転寿司、水族館めぐりなどの楽しいものや、"Welcome to My Home Page"の文字が宇宙空間や大空に展開するものまでさまざまだ。

▶ 注目の JAVA 素材も収録

WEB TOOLには、専門的なプログラミングの知識を必要とするJAVA、Javaスクリプトが30点も収録されている。「SCROLL」(ブラウザのステータスバーに文字が流れてくるスクリプト)、「ELECTRIC」(単純な電光板)、「BUTTON」(画像の上にマウスを持っていくと表示される画像が変わるスクリプト)の3種類のJava

スクリプトから、掲示板、時間によって表示する画像を変えるオートファイルチェンジ、パスワードによるアクセス制限、アナログ時計、ゲーム(スロットマシン、×ゲームなど)、カオス図形の表示などのアプレットと内容も多岐にわたる。特に「Banner」といわれる掲示板は、よく見かける電光掲示板から、サウンドやリンク機能の付いたものまで4種類用意されている。

各素材の説明はHTMLファイルになっており、WWWブラウザで見られる。記述例を引用して使う場合、設定は初心者には少し難しい作業もあるが、説明のページをよく読んで作業すればなんとかなる範囲であろう。

JAVAは現在も発展途上の言語であるため、JAVA自体のバージョンアップにもなってJAVAアプレットを変更しなければならぬ可能性もある。WEB TOOLの場合、ユーザー登録しておけば電子メールでJAVAアプレットのバージョンアップ情報が届き、ダウンロードできる予定になっている。購入者はユーザー登録を忘れないように注意しよう。

▶ 基本素材も充実

さまざまなイメージのバックグラウンド画像が308点、飾り罫117点、アイコン、クリップアートあわせて500点、さらに美しいオリジナル写真が420×3サイズで1374点と基本的なホームページの素材も充実している。これからホームページを作ろうとしている人だけでなく、そろそろワンランク上のホームページ作りに挑戦しようと思っている人にもおすすめの素材集だ。

(梅垣まさひろ)

①素材のQTVRとGIFアニメーションを使ったサンプルページ。



②JAVA(電光掲示板)の説明ページ。

WEB TOOL



SAITO CORD CO.,LTD.



03-3761-6787



5,000円

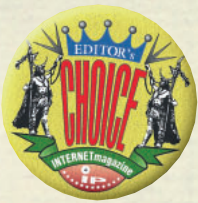


株式会社エイジア

03-5709-8150



http://www.azia.co.jp/WEBTOOL/index.htm



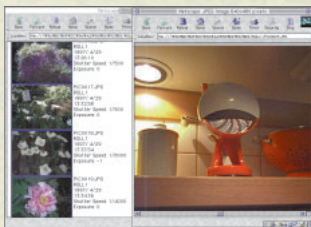
69,800円(本体)



日本電気株式会社(NEC)



①片手での操作性を重視した設計。



②室内での撮影画像と、HTML化した分
かりやすい画像一覧。

Picona



日本電気株式会社(NEC)



69,800円(カメラ本体)



79,800円(Windowsキットモデル)



03-3452-8000



バッテリーボックス、2Mバイトコンパクトフラッシュカード、RS232Cケーブル、端子変換アダプター、ACアダプター(Windowsキットモデル)



http://www.nec.co.jp/japanese/product/personal/news/H9_02/13.html

片手で操作できる小型軽量デジタルカメラ

ピコナ

Picona

ここがスゴイ!

- ①小型軽量
- ②コンパクトフラッシュカード対応(2/4/15M)で余裕の撮影枚数
- ③撮影画像を収めるHTMLファイル作成機能をもつ

●レンズ横左面に再生・消去/連続撮影/撮影/電源断スイッチがある。ボタン類は比較的少ない。



Piconaは、片手で操作できるハンディなデジタルスチルカメラだ。コンパクトフラッシュカードを記録メディアとし、撮影枚数が増えても余裕をもって対応でき、気軽に使えるカメラだ。

▶ 単三電池2本で撮影できる

縦型の本体は、女性でもすっぽりと手に収まるサイズで、本体左側にある1.8インチ液晶パネルを開いて使う。右手で持つと、親指の位置に大きなシャッターボタン、その下に操作ボタンが並ぶ。左ききには使いづらい形状である。フラッシュは内蔵されていないが、専用のフラッシュライトを接続できる。本体右下はバッテリーケースで、アルカリ電池2本で約30分、4本で約150分、充電式で約60分の撮影が可能だ。パソコンとの接続など室内で長時間使う場合などにはWindows用キットに付属するACアダプターが便利だが、バッテリーケースと交換して装着するため取り付けが面倒である。

▶ 画像をHTMLでWWWブラウザ上一覧表示

撮影画像は640×480/1600万色JPEG、640×480×320×240/1600万色・256色BMPの形式で、さらにJPEGはECONOMY、NOMAL、FINE、S-FINEの4段階の圧縮率から選択できる。データはコンパクトフラッシュカードに保存され、本体に付属する2MBカード1枚でJPEGのNOMALモード約35コマ、BMP・256色・320×240なら17コマ記録できる。15MBのカードではJPEG約350コマ、BMP161コマとなり、数日の旅行なら十分だ。CCDは35万画素の1/3インチ全画素読み出し式、レンズは固定焦点、35mm

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]

レンズ相当の広角レンズF3.8を使っている。シャッタースピード、絞りとも自動だが、露出優先でシャッタースピードが1/7秒から1/10000秒で変化する。また中央重点測光なので、中央に被写体を置かないと適正露出にならないが、シャッターボタンの半押しで露出が固定される。±2の範囲で露出調整も利くので撮影時の補正はできる。パソコンへのデータ転送はシリアルケーブルを使う以外に、PCカードアダプターを使って直接読む方法もある。シリアル転送では撮影画像をフロッピーに保存するだけで数十分かかる作業が数分で済んでしまう。また、HTML作成機能があり、1ページに10枚の画像とファイル名、ロール(グループ)名、時間、シャッタースピード、露出補正值が表示されるコンテンツを自動作成できる。Windowsキットでの付属ソフトは、TWAINドライバー、ロール管理ユーティリティ、フォトタッチソフト「ColorDesk Photo」で、その中のロール管理ユーティリティはロールごとにまとめてデータをパソコンに転送できる。

試用レポート

▶ 光学式ファインダーはない

液晶は明るさを調整できるが、屋外では見えにくく、夜間も暗すぎて見えない。洞窟内のろうそくの光程度でフラッシュ撮影を試みたが、液晶が真っ暗で撮影範囲が分からなかった。節電のために液晶パネルを閉じても撮影は可能だが、光学式ファインダーがないので動で撮影するしかない。またシャッターを押したときのクリック感や音がなく、シャッターを切ったタイミングがつかみづらい。撮影後、データをコンパクトフラッシュカードに保存するために7秒ほどを要し、その間次の撮影ができない。その代わりに1回シャッターを切ったときに1/4、1/2、5、10、60秒間隔で連続して6コマの撮影を行う機能を備えている。撮影した画像を見ると、晴天屋外で撮影したものはコントラストが悪いように感じられた。解像度は画素数からして妥当であろうが、色の再現性はよくない。白熱灯を光源にした屋内での撮影のほうが色の再現性がよい。どちらにしてもフォトタッチ処理を前提にしたい。ボタンとメニュー画面を使った設定の操作性もいま一つ不便だった。しかし、撮影後すぐWebページに載せられる便利なカメラでもある。
(菊地宏明)



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp